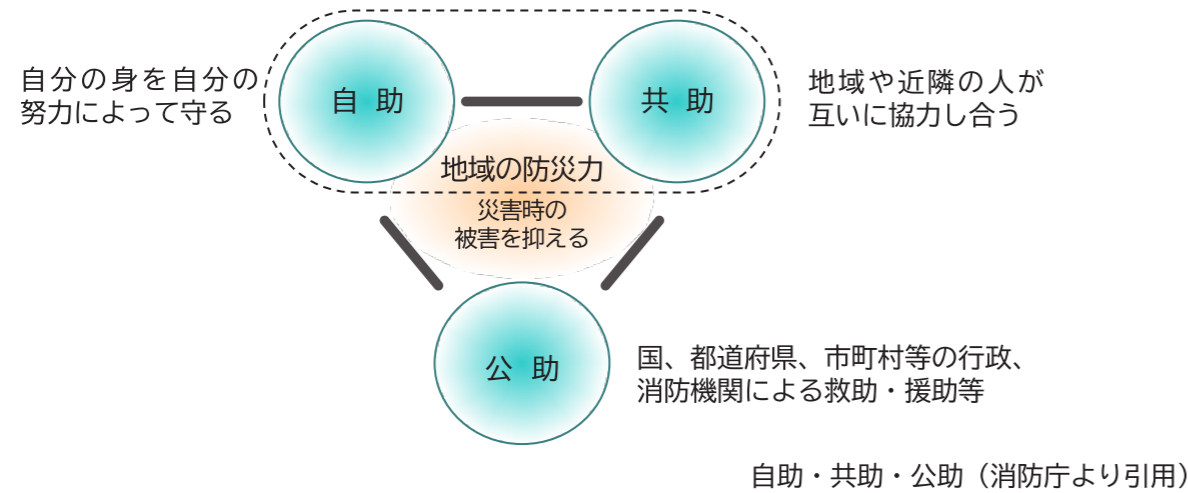


地域の防災活動について

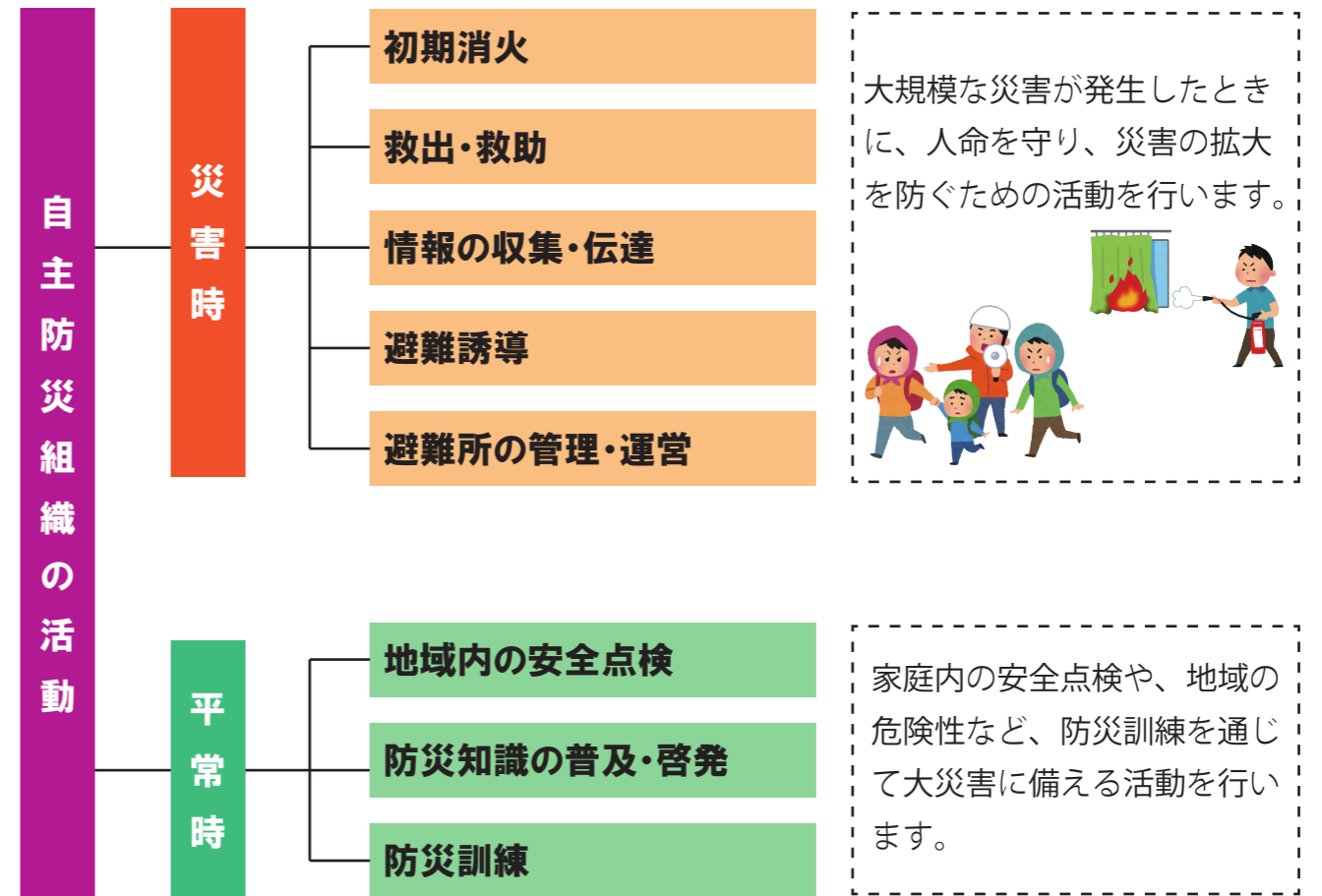
ひとたび大規模な災害が発生したときに、被害の拡大を防ぐためには、国や県、市町村の対応（公助）だけでは限界があり、早期に実効性のある対策をとることが難しいため、自分の身は自分の努力によって守る（自助）とともに、普段から顔を合わせている地域や、近隣の人々が集まって互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組むこと（共助）が必要です。



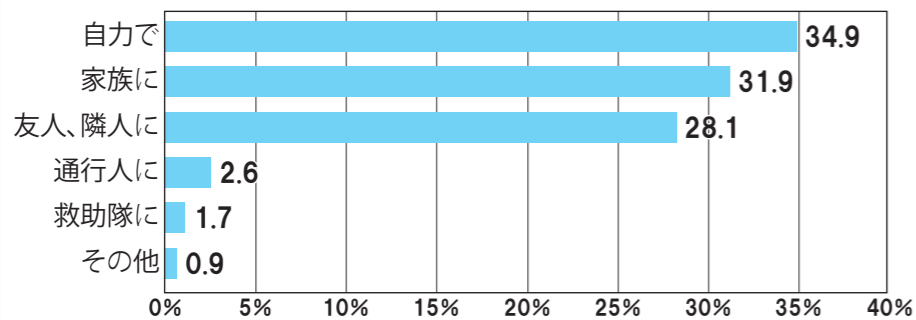
自主防災組織

大規模な災害から自分や家族の命を守るためには、様々な災害発生に備え、普段から十分な対策を講じておかななくてはなりません。しかし、個人や家族の力だけでは限界があり、危険や困難をとまなう場合があります。

このような時、毎日顔を合わせている隣近所の人々が集まって、互いに協力し合いながら防災活動に組織的に取り組むことが必要です。災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織、これが「自主防災組織」です。



生き埋めや閉じ込められた際の救助（阪神・淡路大震災）



災害が大きくなるほど、被災者は膨大になり、情報は混乱し、防災機関などの、適切で迅速な対応は困難となります。このため、発災直後の人命救助や初期の消火活動は、近隣住民の協力が大きな役割を果たすこととなります。

（社）日本火災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による



普段からのご近所付き合いが助けた命（北淡町のケース）

阪神・淡路大震災の震源にほど近い北淡町（現在の淡路市）は、震度7を記録し、多くの人々が倒壊家屋の下に生き埋めになりました。しかしながら北淡町では、地域の住人同士が日常の暮らしを通じてお互いのことを熟知していたため、近隣住民で組織された消防団は、がれきの下で埋もれている人の位置を正確に推定し、速やかな救助によって約300名もの人命を救いました。



自主防災組織に参加しましょう

相生市では、自主防災組織が町内会などを中心に結成されています。お住まいの地域に自主防災組織があれば、積極的に活動に参加して、地域で防災活動に取り組みましょう。

また、防災訓練等が行われる際にも是非ご参加ください。非常時にとっさに動くことができるかどうかは、平時から準備や、心構えができていくのが重要です。

